

平成 24 年度 第 2 回 富田林市総合計画フォローアップ会議 会議録概要

- ◆日 時：平成 25 年 2 月 5 日（火）（13：00～15：30）
- ◆場 所：富田林市消防本部 4 階 消防会議室
- ◆出席者：大西委員、前川委員（座長）、湯口委員、吉川委員（メールでの参加）
事務局：山下、谷口、北村

発言者	発言概要
事務局	<p>■委員 1 名が欠席されたが、過半数の委員の出席により会議が成立していることを報告。</p> <p>■傍聴人の確認 ⇒傍聴人なし。</p> <p>■前回（第 1 回）会議の議事録の確認。 ⇒一部修正する。</p> <p>■事務局提出資料の確認。</p> <p>■前回会議のおさらい</p>
委員	<p>先日、町総代会の新たな取組みとして、町会の疑問や質問に対して、市役所の各担当者から直接聞くことができる機会があった。</p> <p>市役所が本当に多種多様な業務をやっているということがわかってよかったが、説明する側と聞く側に、どこか噛み合っていない印象を受けた。</p>
座長	<p>市民と行政の相互理解を深めるためにせっかく行っていることが「何故噛み合わないのか」その理由を考えていくことが、次の課題である。</p> <p>問題点が見えているのだから、解決できるかどうかわからなくても、議論をしていくことが重要である。</p>
委員	<p>以前であれば、説明会といえ、市役所側からの一方的なものばかりであった。有効な機会となってほしい。</p>
座長	<p>市民と行政が対立するのはなく、議論することで明らかになる食い違いにこそ、解決の糸口がある。</p> <p>市民と行政が一緒になって考えようというのが第 4 次総合計画の提案であるので、第 5 次総合計画に向けては、それを具体化したい。</p> <p>食い違いをリストアップして、見える形にして議論する。そういう作業が必要だと提言していきたい。</p>

委員	<p>■「成果指標設定マニュアル」について</p> <p>仕事の目的の把握から、成果指標へとイメージをつないでいく考え方が書かれており、わかりやすいマニュアルであると思う。</p>
座長	<p>4ページの「●成果指標の数値設定のための留意事項」のなかに「◎数値化されていること」とあるが、これまでのフォローアップ会議で、数値化されていることが全てではなく、数値だけの評価では判断を誤る可能性があることを強く指摘してきていることから考えると、「数値化されていること。ないしは、数値化できない場合は、同等の…」と併記することを提案したい。</p> <p>マニュアルに対する市内部の評価はどうか。 いいものを作ったときに評価する気運を庁内に醸成することも重要である。 市民も行政も、悪い面を取り上げるだけでなく、いい面を評価することに慣れていく必要がある。</p> <p>「成果指標設定マニュアル」が活用され、職員に行政評価の趣旨が理解されたうえでシートが出来あがってくることが政策推進課の成果であると思う。 「3つのしくみづくりを評価する」ということを、マニュアルに書き加えることを提案したい。</p>
委員	<p>マニュアルに「他課のデータも参考にすること」も加えてはどうか。 市役所各課でも、いいところを参考にし合うようなしくみを提言したい。</p>
事務局	<p>■行政評価シートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成21年度出前講座→平成23年度生涯学習推進事業として整理している。 全事業の評価は行ってはいない。 成果指標が「設定できない」としている場合でも、なぜ設定できないかのコメントをいれている点などに職員の意識変化が見える。
委員	<p>21年度に比べ、23年度はコメント欄の記載内容に職員の意識の変化を感じる。</p>
委員	<p>こういった資料が整理され、今わたしたちが見ているということが変化である。</p>
委員	<p>東日本大震災での影響で、予定どおりに進まなかった事業はあるか？</p>
事務局	<p>今、提示している事業で震災の影響が表れているものはない。</p>
委員	<p>震災以後、防災の関心は高い。危機管理と一言にいても、それぞれの地区の特性があるはずである。地域の特色を生かした成果指標になれば、もっと具体的してよい。</p>

座長	<p>現総合計画の「安全で快適に暮らせるまちをめざす」は、「自分たちのまちをどう守るか」という視点だが、次期総合計画には新たな視点として「被災地をどう助けていくか」も必要ではないだろうか。</p>
座長	<p>個別シートについて</p> <p>「平和のつどい」の目的欄、21年度は「戦後60年」とあるのが、23年度は「戦後65年」となっている。細かいことではあるが、平和という特に大きなテーマにこういった間違いは良くないので修正したほうが良い。</p> <p>人口は減っていると聞いているが、「広報誌発行事業」の活動指標の「発行部数の世帯数」は年々増となっている。</p> <p>これは核家族化が進んでいることになろうかと思うが、そういったなかでの行政のあり方は難しい。</p> <p>単純に人口を増やすのでは解決しない問題がある。</p>
委員	<p>人口減による空き家増も問題である。</p>
座長	<p>空き家を利用しての、太陽光発電による売電というように、人口減少も「住む人が減って困る」という受け止め方ではなく、生かしていくような方向も考えていければいいのではないか。</p> <p>コスト分析表で、予定（予算）と実績（決算）の差が大きいのはなぜか。</p>
事務局	<p>21～22年度はシステムの試行期間であり、予定（予算）において事業費に人件費の加算を行っていないためだと思われる。</p> <p>また、予定（予算）は当初予算額のみで、補正予算額は反映されていないシステムとなっている。</p>
座長	<p>市民に不信感を抱かせることにならないよう整理することが必要である。</p> <p>補正等がシステムで対応できないのであれば、補足説明をいれておくのがよい。</p> <p>全体の傾向としては、成果指標を設定できない理由が明記される等、改善が見られ、整理されてきたということを一応評価したい。</p> <p>しかしながら、お金が増えた＝市が力をいれた、と明確にわかることから、コスト分析機能をもっと効果的に使うべきである。</p> <p>そのためにも、予算決算の部分を正確にしていくことが必要である。</p> <p>行政評価については、市民に公開する方向で考えていってほしい。</p> <p>誰が見てもわかりやすく整理し、見てもらい、意見をもらい、改善していく。</p> <p>市民も、無責任に感覚的に意見を言うのではなく、裏づけの数値を見ることができ</p>

<p>委員 (メール)</p>	<p>るので、市民の責任を果たすことも容易になる。</p> <p>行政評価は次期総合計画にむけての具体的なしくみとして提案したい。</p> <p>■委員のメールでの意見について</p> <p>【今年度以降のフォローアップ会議の内容に関する意見】 (要約)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォローアップデータの継続性の確保面からも、進捗評価の方法に大幅な修正や追加は、これからは避けるべき。 ・これからの2年度を「総計のあり方、つくり方」を検討する時期、次の2年度を「実際の準備作業」とする。フォローアップ会議を、そのための議論・検討・確認の場とする。
<p>座長</p>	<p>「データの確保、進捗評価の方法を変更しない」は、同意見である。</p> <p>フォローアップ会議資料を職員自身が見ていないのはもったいない。 政策推進課から、各課に回覧するしくみを整えていくことを提案する。 今年と来年は「次期総計のあり方を考える時期」。今年は「時期にきている」ということを報告書で提言する。</p>
<p>委員 (メール)</p>	<p>【目指すべき総合計画に関する意見】 (要約)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合計画の理想は「それぞれの業務の目的・目標や目指すべき方向が記されており、職員の動機付けや判断の拠りどころとなるバイブル」 ・現状は「総合計画審議会委員や上役が決めて押しつけたもの」として感じられている総合計画であるが、職員が自身の仕事の判断に迷ったときに、立ち返って目的が再確認でき、意識や行動の指針を与えてくれる書、職員ひとりひとりの役に立つ「バイブル」になるのが理想。
<p>座長</p>	<p>「バイブル」という言葉は少し気恥ずかしい。役立つ「もの」「資料」という表現に変えるのはどうか</p> <p>これまで資料としてまとめてきたことは、職員の仕事を増やすことではなく、整理されて仕事がしやすくしていくことにつながるという提案をしたい。</p>

<p>委員 (メール)</p>	<p>【長期にわたる準備作業を提案した理由】 (要約)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記のような総合計画にするには、職員の全員参加型で、自らの業務について考えたうえで、自らの発案により、自らの役に立つ内容をした素案をつくるのが肝要だと思われる。 ・「職員の全員参加型」とは、課ごとに会議と重ね、まとめ上げる作業。 この方法では、業務多忙の中で、会議を重ねる期間が必要であり、この会議を追加で生じた(義務的な)手間ではなく(自分たちのためになる)業務の一環として、会議を位置づける必要もある。 この仕組みを定常的な仕事の1つとして、計画作成への貢献が評価される機運を醸成する期間が必要であろうことから、2年度+2年度の長期にわたる準備期間が必要だと提案した。 ・これまでも、総合計画審議会に先立って、総合計画委員(職員)で素案が作られてはいるが、委員構成が理事者・部長職となっている。 課員→課長→部長というような意見集約方法は、個々の職員が自らつくったものと実感できなくなってしまう要素をはらんでおり、これを排除することが最も重要。
<p>座長</p>	<p>「職員の全員参加」に重点がおかれているが、一方「市民参加」を考えることも忘れてはいけない。</p> <p>前回の総合計画委員では、部課長級の職員が委員となっていたが、垣根を下げて、担当者が参加できるようなしくみが必要。それにはある程度の時間が必要だという点にも同意できる。</p> <p>市民懇談会を、フォローアップ会議として、再度提案するのかどうかであるが、市民懇談会のような意見交換する場は必要であると考えている。</p> <p>前回と違い、データが整理されてきているので、市民がそれを見て、自分が関心のある内容に意見が言えるような方法があればよい。</p> <p>公募市民といっても、枠が広すぎると市民は応募しにくい。</p>
<p>委員</p>	<p>市内に居住している職員は、全職員の半分ぐらいか。</p> <p>市の職員にも、一市民として、自分たちのこととして考えてほしい。</p>
<p>座長</p>	<p>地域の当事者のほかに、他所であっても市民懇談会にかかわっているような人や、また、「学識経験者」枠を「市民公益活動をしている人」にまで広げるのもよい。</p> <p>今の基本構想に、市民参加を謳っているのだから、そういうしくみをつくっていくべき。</p>

<p>座長</p>	<p>自治法改正により、市の基本構想策定義務は無くなっており、次期総合計画について策定するのか、しないのか、市内部でどのように考えられているのかはわからないが、フォローアップ会議としては、策定されることを前提に工程表をより具体的に提案していきたい。</p> <p>次期総計は 29 年度を始期とするため。逆算すると…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 25 年度後半～26 年度前半 市民懇談会 ・ 26 年度後半～ 総合計画審議会 ・ 27 年度 総合計画審議会 ・ 28 年度 // ・ 29 年度～ 第 5 期総合計画スタート <p>25 度はフォローアップ会議と市民懇談会が並走し、市民懇談会にフォローアップ会議の様子も報告していくようなイメージで提案したい。</p>
<p>委員 (メール)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【準備作業・素案づくりの際に重要と考える内容】 (要約)</p> <p>①『各課において、その課が何を目的として存在するのか、自らの言葉でまとめ上げる』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お役所言葉で書かれた業務内容ではなく、自分たちがわかりやすい言葉とすることが重要。 <p>②『それぞれの事業について、課の目的に照らしながら、目的と効果(何のために行うのか&それを行えば市民が◎◎できる)を明文化する』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今はこの部分が抜けている。 ・国等で決められている事業・制度も「決められているから」ではなく、国等の真意を調べ、市民生活のどの部分に効果があるのが分析する。 ・他部署とともにやりたいこと。協力を得たいことも具体化できればベター。 <p>③『仕事の効果を「把握・分析」するために、どのような指標や数値が役立つかを考え、提案する』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の成果指標や数値実績は、増減や達成率だけを問題視したり、あるいは算出することが目的化されている。 ・元来、こうした値は、本来の目的(②などで定めたもの)を達成するために、現状を把握したり、今後の改善のために使わなければ意味がない。 ・成果に関するノルマではなく、目標に対して、うまくいったこと、いかなかったことの事後分析や今後の改善点を見出すために行うことを求めるべきである。 <p>②③に関しては、意見の集約などは行わず、課員の発案をそのままリスト化したり、会議の場での課員は発言を漏れなくまとめる形とするべき。</p> </div>

座長	①の「自分達がわかりやすい言葉」とは「市民がわかりやすい言葉」ということか。
委員	職員は、市民と仕事との狭間で言いたいことの半分しか言えていない印象がある。
事務局	「職員自らが自分達の言葉で作りあげる」という意味では？
座長	いや、お役所言葉はわかりにくいので、「市民にも職員にも両方がわかりやすい言葉」という意味であろう。
	<p>②の「目的と効果を明文化する」は、行政評価シートの目的欄と内容欄で一定わかるのではないか。</p> <p>備考欄等を活用して「もっと誰でも見やすく、見える形」に整理していくのが大切であると、我々が話し合ってきたこととも通じる。</p>
委員	「国等で決められている事業・制度を“決められているから”としない」という指摘は大いに賛成できる。
座長	「職員の発案をそのままリスト化して、いろいろな意見、アイデアを残す」というのは明文化ともつながり、いい考えであり同意できる。
委員 (メール)	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【総合計画の内容と総合計画審議会の位置づけ等】 (要約)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標は市民の要求とズレがないようにしなくてはならないが、上記のような手法で、職員が自分たちで目標と意図を明確に打ち出した素案であれば、『基本計画』の内容は十分だと思われる。 ・市民の要求とのズレや漏れのチェックは必要だが、意味なく市民に迎合した表現とする必要はない。 ・その代わり、その基本計画を受けての「基本構想」は市民にわかりやすくするための工夫が必要になる。 <p>ただし、個々の業務の目的が、前記の方法を通して明確になっていれば、その優先度・重要度を吟味することも容易く、自信を持って、メリハリある基本構想を提示できると思われる。</p> <p>「総合計画審議会」は、チェックのために利用する場と位置づける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①行政の専門家からは考え方や事例の、分析・評価の専門家からは技術的な提案を受ける。 ②組織代表からは、それぞれの立場から意見を受け、漏れのチェックを行う。 ③市民代表の意見からは、市民ニーズのありかを確認し、施策との乖離のチェックを行う。 </div>

座長	<p>「目標は市民の要求とズレがないようにしなくてはならない」のはもちろんのことであるし、「意味なく市民に迎合しなくてよい」という部分も、総合計画審議会委員が責任を持って、意見表明すればよいことであるので、同意である。</p> <p>総合計画の策定には市民参加も必要であるが、多くは職員が自らまとめ、考えることが必要であるということであろうか。</p> <p>職員の皆さんには自分達でよく考えて行えば、自分たちの仕事を効果的にでき、負担も減り、成果をあげられる。しないことで負担を減らすのではなく、することで負担を減らすという思考回路になってほしい。</p>
委員 (メール)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【第1回フォローアップ会議についての意見】 全ての発言に同意する。</p> </div>
委員 (メール)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【全体的な意見として:フォローアップ会議資料のフィードバックの仕組みづくり】 (要約)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォローアップ会議に提出される膨大な資料を、職員の取組意識向上につながる形で有効利用することを提案したい。 ・資料を全庁的にフィードバックし、他課の状況をお互いに行うことができるようにすることが重要。他課の取り組み方を見て気づくことに効果がある。真剣に取り組むことを良しとする機運の醸成も期待できる。 </div>
座長	<p>フォローアップ会議資料等について、庁内においては各課が他課の取り組み状況を見せる、見られる仕組みの検討をお願いしたい。</p> <p>市民向けには、ウェブサイトで公開されているものの、今年度から報告書の別冊資料とし、1階の情報公開コーナーに設置する等の様々な公開することを提案する。</p>
委員	<p>公開することで、職員の取組意識向上にもつながる。</p>
座長	<p>市民からのチェックを受け、市民から見てわからない部分を教えてもらうことで、より磨きあげられていくように、市内部においても、他課を見ることでヒントを得、各課がお互いに高め合う雰囲気になればよい。</p>

<p>委員 (メール)</p>	<p>【「フォローアップシート①」に関する意見】 (要約) ・上記のフィードバックの仕組みに乗せ、それぞれの職員が、実情を知り(例えば、フォローアップシートで、どういった議論がされるのか)、一瞬でも考える機会をもってもらうことが重要。</p>
<p>座長</p>	<p>職員への意識づけは進んでいるというものの、まだ自分の部分しか見ていない現状があるので、お互いのいいところを見習っていくという視点からも、フィードバックの仕組みが重要である。</p>
<p>委員 (メール)</p>	<p>【「フォローアップシート②」に関する意見】 (要約) ・〇×について、任意で補足説明できるような欄の追加を提案したい。 ・会議で議論された「〇×をつける際の視点を広げることの重要性」を、担当課だけに指摘事項として問い合わせるだけでなく、他課にフィードバックすることで、意見をより活かすことにつながる。</p>
<p>座長</p>	<p>確かに「60点の〇なのか、90点の〇なのか」説明したい気持ちはあるかもしれない。シートに行数を増やすことは可能か？</p>
<p>事務局</p>	<p>実施計画システムを使って作表しており、システムに新しい項目の記入欄がないため難しいかと思うが、確認する。</p>
<p>座長</p>	<p>市民参加において、市民からの市へのフィードバックも忘れてはいけない。出来ていない部分だけでなく、評価すべきところは伝え、市民の育ちの視点も大事である。</p>
<p>委員 (メール)</p>	<p>【「各種数値データ一覧表」に関する意見】 (要約) ・「集計値」「累計値」といった記載方法に工夫が必要。 ・会議での指摘事項を、全課にフィードバックし、それぞれの課で、他課への指摘事項を参考に、よりよい表になるようみんなで取り組むべき。 ・データ整理が単純作業にならないよう、備考欄に「努力した結果の数値である説明」や「どうしようもない数値である説明」などのコメントを記載することを提案したい。 ・「データは活かさなければ意味がない」「意図なく数表は載せない」「載せた数表は必ずその意図を説明する」こと。データの提示には「必要」かつ「十分」であることが求められる。</p>

座長	<p>文字ばかりで読みづらい → 一覧表にする → 表も細かくなると見にくくなるので、委員の提案にあるような数値についてのコメント欄を設けるにも賛成であるし、絵文字のようなマークを使い、見やすく親しみやすい工夫をするのも、時代にも合っていてよいのではないかと思う。</p>
委員 (メール)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【「平成 23 年度市民アンケート(満足度・重要度)」 「市民アンケート調査ランキング」に関する意見】 (要約) ・会議で議論されたように「どのように市政に活かすのか」がアウトプットされなければ、意味がない。</p> </div>
座長	<p>アンケートの分析については専門的な部分もあるので、28年度までは現状のアンケートを使いながら、アンケートそのもののあり方については、別途検討してしてもらえればよい。</p>
委員 (メール)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【「平成 23 年度事務事業評価集計表」に関する意見】 (要約) ・設定された成果指標の妥当性を評価することはあえて避けるべき。 ・自らで、自分の仕事の成果を考え、「成果指標」や「見直し実績」で、自ら説明する機会を設けることが、まずは重要。</p> </div>
座長	<p>個別評価ではなく、全体的に底上げして、いいものにしていくための話し合いをフォローアップ会議でも行ってきた。 自分達で気づき、考えることが大切。 現時点では、今までの役所の考え方にはなかったものが、行政評価という形で整理されてきたということの評価すべきである。</p>
委員 (メール)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【「平成 23 年度事務事業の施策別分類」に関する意見】 (要約) ・総合計画の枠組みに事業を客観性高く分類した、重要な基礎資料。常に最新の状態にすべく留意する必要がある。 ・市はこれだけ多様な仕事をしているとPRしてはどうか。</p> </div>
座長	<p>確かに、市民もこういった一覧表を見れば、こんなに市役所はいろいろやっているんだとわかる。 今までは見られる機会がなかった。見るか見ないかは市民の責任。 ぜひ市民が見る機会を作り、PRしていくことを提案したい。</p>

座長	<p>委員の意見を総じると、これまでまとめてきたものを、うまく活用して、市民と市との間でも、市内部の職員間でも、市民と市民の間でも、多様な形で有効に利用しあっていくことで、横糸としての活動のデータにしていけばいい、というふうなことかと思う。</p>
座長	<p>■今回のフォローアップ会議のまとめ方</p> <p>資料8「前回の報告書についての進捗状況」でまとめてもらったようなことや、フォローアップシートのような資料の整理が出来てきて、「発想の転換が進むような風土の醸成ができた」とまでは言えないかもしれないが、それに向かって進めてきた。</p> <p>出来てきた資料を活用して、市民と職員だけでなく、職員間、市民間での意見交換をより深めよう。それが、情報公開を進めることでもある。</p> <p>市民も実際のデータを見て、裏付けを持って発言できる。</p> <p>そういうところまで進んできたと評価できる。</p> <p>加えて、今までのフォローアップ・検証会議の方向性を、今回の会議でも踏襲していくなかで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの蓄積を活用していくことがフォローアップのひとつの仕事である。 ・データを活用しながら、発想の転換を良しとする機運をつくりあげていく。 ・計画と予算はセットで論ずるべきである。 <p>これらを念頭に、フォローアップ会議としては、次期総合計画へのステップのデータの準備は終えてきた。</p> <p>それを次に、市民間での議論の場としての市民懇談会（前と同じような形になるかは、また検討していく）へ提示して、議論していただき、役所の中では、役所の中でまた議論していただく。それを総合計画審議会へつなげていくような形で、報告書では「市民懇談会の提案」「次期総合計画に向けての審議会等の工程表をより具体化して提案」をしていきたいと思うが、どうか。</p>
委員	<p>職員の意識改革については、少しずつ進んでいるとは感じるが、さらに深まるように継続されることも求めたい。</p>